

## 【キリスト教会に根ざし勝利する神の家族】



聖書:マタイの福音書16章13-19節 / 暗唱:マタイの福音書16:18 説教: ちよんむちよる 鄭南哲牧師  
 「そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれには打ち勝つことはできません。(マタイの福音書16章18節)

イエスキリストを信じてから信仰の生活をする時に、欠かせない大切なことがあります。それは教会です。今日ある方は教会って別に入らないとか、その代わりに物をつくろうとしたりもしますが、それは主の教会について正しく知っておらず、偏っている証拠だと思います。イエスキリストを受け入れ信じ、これから神様中心、聖書の御言葉中心とした健全な信仰生活を送るすべてのクリスチャンたちは何よりもキリスト教会との関係を大切に保ち、キリスト教会中心とした信仰を根ざし、信仰生活をしています。なぜなら、今日は聖書の御言葉を通して、教会の正しいの意味を知り、信じ、従っている為でしょう。しかし、意外と多くのクリスチャンの方々や教会に通っている方々の中、教会ってただ十字架の屋根がある場所、毎週日曜日に人々が集まって礼拝を捧げる場所でしょうかご存じではない方々がいいます。

わりと、クリスマンプレイズチャーチの神の家族はほとんど、この教会に関する信仰と聖書知識は正しく持っていらっしやるとは思いますが、今日のメッセージの聖書の御言葉を通して、ともに確かめておきたいと願っております。

愛する信仰の家族のみなさん! 教会はイエスキリストを信じ、救われた罪人たちの集まりですので、不完全な人々の集まりだと言えます。それにもかかわらずこの不完全な教会への我らの主の期待と望みはとっても深いのです。イギリスのスパルジョン先生にある日一人の信徒さんがたずねてきてお願いをしたそうです。“先生、先生は顔は広いですから、ご存じ問題のない完全な教会を紹介してくださいませんか。”すると、スパルジョン先生は“そのような教会があれば、私にも紹介してください。私もその教会のメンバーになりたいですね。”と言って、最後にその人に忘れられない一言を言いました。“しかし、もしもあなたがそのような教会を見つけたら、あなたはぜひその教会の会員にはならないでください。なぜならあなたがその教会の教会員になればその教会はあなたのせいで完全だった教会が不完全になってしまうかも知れないからです。”これは地上の教会が完全ではなく、すべて不完全な信仰の人々の集いであることをよく示してくれる話でしょう。

それにもかかわらず、聖書で教会は主のものだと教えています。今日の短い聖書の本文は主がみずから立てる教会の素晴らしさをよく表しています。今日の御言葉には大切な四つの質問に対する答えがあります。「一つ目、教会とは何であるか。二つ目、教会の基礎は何であるか。三つ目、教会の主人はだれなのか。四つ目、教会に与えられている祝福と力は何なのか」ということです。

## ①教会とは何ですか。

原語の文字であるエクレシアの意味は“神に召し出され集められた群れ”です。キリストなしに離れ生きて来た人がある日イエスキリストの福音を聞いてその方を救い主として受け入れ、イエスキリストに属する人をクリスチャンと言います。このクリスチャンたちの共同体を通して、主の教会は形成されるのです。我々が必ず覚えるべきことは、教会は個人ではなく、共同体であり、建物でもありません!教会は集まって、礼拝したり、御言葉学んだり、自由に賛美したり、主にあって交わっていくための建物は必要ですが、教会は建物を意味してはいません。そして新約聖書においていつも教会は個人ではなく、救われた人々の群れ、つまり、信じた群れの信仰共同体として使われていたことが分かります。

御子イエスキリストは我々を救われた後、教会の体としてつながるようにされました。教会の体になる我々は個人としてではなく、教会という共同体をとさせ、一人でも永遠に滅びることなく尊い魂が救われて行くように、イエスキリストの弟子として愛の実践と働きをしながら、神様の救いと愛を全世界に証しする使命を授けて下さったのです。

私は個人的にこれからも我々の教会の施設をもっと広げ、もっとたくさんの自由に交われるように、子ども、信徒の信仰教育が十分出来るように、我々の愛する新しい世代が神様の御言葉を聞き、主に栄光を返すすばらしい信仰の成長が伴われるようにと祈っています。そして小さい子どもからはじめ若い世代、お年寄りの方々がともに交わり、祈りあえる、地域社会の人々のために、奉仕出来るもっとたくさんの空間があればと願っています。だからといって、われわれが誤ってはいけず、忘れないで頂きたいことは、主の教会は建物では決して教会ではないということです!

そして、クリスチャンの救いには信仰告白が必要ですが、教会は共同体の特徴を持っています。教会はイエスキリストを信じ受け入れ信仰告白した者たちが集まり、ともに神の御名を賛美し、礼拝と宣教、愛の交わり、キリスト

の弟子を育てるのを通してともに建てられて行く信仰の共同体です。ですから、イエスキリストを信じるクリスチャンは、個人の告白を超えて、「共に」集まらなければなりません。ここに神様が地上に教会を建てられた一つの重要な目的があります。まだ完全に聖化されていない罪人の集まりなので、当然教会は不完全です。しかし、我らは、そこで神の国の民に相応しい姿を学んでキリストの弟子として成長して行くのです。

「ある人たちの習慣に倣（なら）って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合ひましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。（ヘブル10章25節）」

聖書では、終わりの時が近づくほど、ますます熱心に集まるように薦めています。神の国は「ともに」集う礼拝・宣教・教育・愛の交わりの神の家族信仰の共同体だからです。

現代はひとりで食べ、一人で飲むほうが楽な時代であり、独身も増えて来ています。人に会って交わることを面倒がり、人間関係を持つ代わりに犬や猫を飼う人も増えています。そのためか、教会に所属せず、一人で礼拝を捧げる人も増えています。

信仰生活の中で一番大切なのは、関係です！神様との関係と交わりを深める努力をしつつ、同時に神様が出会わせて下さった人々との関係と交わりの中で共に信仰は成長され、成熟されて行きます。一人で信仰生活をして、信仰は成長しません。傷つくことや、つらいことがあるとしても、教会の共同体として共に集まる時、我らはともに健全に成長されて行くでしょう。

ですから、注意すべきことは、我々は建物、そのものに集中しすぎてしまって、人を失ってしまうあやまちを犯してはいけません。まことの教会はキリストを信じているみなさんであり、我らなのです！

イエスキリストを救い主として受け入れ救われた個人個人がともに集まって共同体として主の教会をつくり上げていくように神はデザインして下さったことが分かります。ですから、ここに集っていらっしゃるみなさんは教会の体として立てられた美しい神の家族の存在です。ですからこれからも我々がもっとお互いの存在を大切に思うべきです！！

## ②教会の基礎と土台は何ですか。

イエス様は“この岩の上にわたしの教会を建てる”と使徒ペテロに言われました。教会が建てられるこの岩は何ですか。

この箇所に対して、キリスト教教会史によると、いくつかの解釈があります。

一つ目は、その岩をペテロという人として解釈することです。これがローマカトリックの伝統的解釈です。ですから、ペテロは初代教皇だとみなし、この教皇を通して教会が建てられたと主張して来ています。原語のギリシャ語の聖書で見ても、それは明らかです。（ペテロ-「ギリシャ語男子名詞：ペテロス」・岩「ギリシャ語女子名詞：ペトラ」）ローマカトリックの伝統的解釈では、人間であるペテロ自身がイエス様が言われた「岩」と解釈してしまい、このペテロの上に主の教会を建てて下さると信じ込んでいます。ですから、カトリック教会は、ペテロを教皇1世とさせ、ペテロ一人の人物をとて偉大で大切だと解釈しています。結局、ペテロがキリストに変わる権威を預かったと理解し、19節で、天の御国の鍵を預かっているのもペテロ（ペテロ首位権）だとし、教皇のおっしゃる言葉が、キリストのことばと同じく大切に扱っているわけであります。

しかし、ペテロ自身は、マタイ26章を見ると、イエスが十字架にかけられようと捕らえられた時に、恐れてイエスを3度も否定していたただ弱い人の人間にすぎません。そんなペテロは、「あなたは生ける神の子キリストです。(16節)」と信仰告白出来たのは、自らの力で告白したのではなく、17節に書かれているように、「イエス様はペテロに「このことをあなたに明らかに示したのは人ではなく、天におられるわたしの父のゆえである。」と教えて下さった主の御言葉は大事にしてないことでしょう。

本文の後を読んでみると、十字架に向うイエス様をとめるペテロにイエス様は「下がれ。サタン。(16章23節)」と叱って下さいました。彼が神様の御心とご計画を拒んだ時、イエス様はすぐさま彼に惑わしているサタンを叱られました。もし、サタンの影響を受ける人の上にイエスキリストの教会が建てられるとしたら、はたしてその教会は力強く用いられるのでしょうか。ですから決してこの岩はペテロではありません。

ペテロの信仰告白は神の助けで告白出来たのです。ペテロは単なる人間。神がペテロにそのように言わせたその告白が偉大であります。そこにイエス様はわたしの教会が建てることと約束されました。ですから、プロテスタントの多くの我らクリスチャンたちはここでの岩はペテロの信仰告白、あるいは、その信仰告白をした信じる人たちだとよく言われて来ました。

イエス様はまことに「生ける神の子キリスト」であられるというこの信仰の最も大切でしょう。イエスキリストを受け入れ信じる信仰を神と主の教会の前で告白することにより、神の救いを受けられる聖書の神の御約束だからです！

「私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、その証しをしています。だれでも、イエスが神の御子と告白するなら、神はその人のうちにとどまり、その人も神のうちにとどまっています。(ヨハネの手紙4章



14-15節第一)」・「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと思ふなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。(ローマ人への手紙10章9-10節)」

最近ほとんど、イエスキリストご自身であると信じています。人々は、人の子イエスキリストご自身をだれだと言っていますか。そして、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。”というイエス様が弟子たちに尋ねた時、一番弟子であったシモン・ペテロは「あなたは生ける神の子キリストです。(16節)」と信仰告白をしました。この信仰告白の上にイエス様はわたしの教会が建てるということが正しい解釈に間違いはないかも知れませんが、もっと正しいのは、イエスキリストは、このように、イエスキリストが基礎と土台となられ、真に生きておられる神の御子、キリスト(ヘブル語：メシヤ・救い主)であると信じ、告白した者たちを通して、彼らを用いて教会を建てて下さるというキリストの御約束でしょう。

そして、ここでもっとも大切な一つは、この信仰の告白自体よりは、信仰の告白の中心であり、核となるイエスキリストご自身にあることを覚えなければなりません。言い換えると、結局、イエスキリストご自身の上、に主の教会は建たされるわけで、この岩はキリスト以外、その名を言い換えるものはだれもないということです。

パウロも第一コリント人への手紙10章4節で「その岩とはキリストです。」と言いました。

そして第一コリント3章11節では「だれも、すでに据(す)えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。」と宣言しました。第一ペテロの手紙2章4節でも「主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い、生ける石です。」とペテロは告白しました。そうです。

この岩はまさにイエスキリストご自身であり、イエスキリストを土台として主の教会はたてられるのです。ですから、全ての主の教会の基礎となるのはイエスキリストご自身であり、そのイエスキリストを受け入れ信じて信仰告白をした人々、その群れを用いて主の教会が建てられて行くことを共に覚えておきましょう。

③教会の真の主人(かしら)はだれでしょうか。

イエス様は「わたしの教会を建てます。」と明確に語って下さいました。(18節)

「わたしの教会」ここで、イエス・キリストの一番大切な愛情の対象は主の教会(キリストを信じている共同体)であることをよく表してください。

「また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです(エペソ人への手紙1章22-23節(Ephesians))」

「また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となりました。コロサイ人への手紙1章18節(Colossians)」

教会の主人はイエス様です。イエス様はわたしの教会だと言われました。そして、教会はかしらとなるキリストの体であるのです！教会の主人は牧師でも、役員でも、初代メンバーでも、信徒でもありません。ですから、牧師をみあげてはいけません。人にたよってはいけません。主の教会を建てて下さったのもイエスキリストご自身であり、教会のかしらも、教会の主人も人ではなく、イエスキリストご自身です！人が勝てに主の教会を左右しようとしてはいけません。ですから、わたしたちは教会のかしらなるイエス様に我々の視線と心を集中しなければなりません。

いつも教会を歪曲させる二つの危険から気を付けなければなりません！

一つは、先に長く教会で信仰生活をして来た者の優越意識や既読権を主張しようとする誘惑に気をつけることです。

「このわたしがこの教会でどれだけイエスキリストに仕えて来たのか。献金をどれだけさげているのか。」と言いながら、イエスキリストのかわりに、人が主となってしまふ誘惑から我々はともに主の教会の共同体を守らなければなりません。愛の仕え・親切・忍耐の姿勢が必要でしょう。

もう一つは各自持っている今まで家庭で、社会で自身が正しいと思う固定観念や価値観を教会内に通そうとする誘惑に気をつけることです。聖書中心信仰・姿勢が大切です！教会は、イエス様が言われた神の御言葉、聖書中心の教会とならなければ、健全に、主が望んでおられる通教会が建てられることが難しくなります。イエスキリストが言われ、神が命じられた通りに、従う従順と一つになってともに支え、仕えて行く協力の姿勢がもっとも大切です！

④教会に与えられている祝福と力は何であるか。

最後に、今日の本文で、イエス様はこう言われました。「わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。(本文18節)」

“よみ（ハデス）の門もそれには打ち勝てません。” これはどんな意味ですか。よみ、ハデスつまり地獄の門も、キリストが建てて下さった主の教会を揺れ動かすことも倒れさせることも決してできないということです。

そして、どんな地獄の勢力も、主の教会の信徒たちの共同体を決して飲み込むことができないということです。  
イエス様は「わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の御手から奪い去ることはできません。(ヨハネ10:29)」今まで人類の歴史の中で、どれほど主の教会をこの地上で完全に消し去られるように、抹殺しようと激しい迫害や妨げがあったのでしょうか。昔も、そして、今日も、絶えず、主の教会の共同体を分裂させ、倒れさせようと戦いや誘惑、試みが絶えず襲って来ますが、一度も、世界中でキリストの体なる教会共同体が消えたこともなく、キリストの体なる教会の共同体につながっていたキリスト者たちを、我らをキリストの愛から引き離れたこともできませんでした。地上で主の教会が建てられて以来、地獄の門は主の教会（キリストを信じる共同体）を飲み込むことも、実は、却って主の教会が打ち勝って来ているでしょう。

以前、中国が共産主義化になってしまった時、教会は多くの迫害や厳しい監視、追放によってキリストの教会はすべて永遠に消え去ったと人々は思い込んでました。ところが、数年前、中国の中で、地下で家の教会中心にキリストを信じる者は増え続け、毎週三千人、もしくは数百人が一気に隠れた地下の家の教会に集まって来た結果、今日は、中国の中でクリスチャンの人口は1億を超えている統計があり、地下の家の教会の数は数えられないほど増え続けていると言われています。いくら、主の教会を迫害し、分裂させて教会を無くそうとしても、イエス・キリストの栄光なる教会は地獄でも揺り動かすことのできない御力を持って守って下さっていることを忘れないください。

**やみの勢力と力が、いくら神様の教会を攻撃して来ても、キリストの土台の上に建てられ、ともに繋がれている神の教会、信仰の共同体は、決して完全に倒れず、ついにキリストとともに勝利することを約束して下さっています！**  
**様々な誘惑と熾烈な様々な戦いの中であっても、イエス・キリストご自身が最終の勝利者となられたように、イエスキリストの御体なる教会につながれている我らも、キリストとともに必ず勝利する人生となられという保証であります。**

愛するクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族のみなさん！

ひとりなら、激しく倒れやすく、流されやすくとも、キリストが土台となり、キリストご自身が主人として、すべて治めておられる主の教会は、すでに、キリストがすべてのサタンと悪霊の試みと戦いに勝利をおさめ、神の御業を十字架の上ですべて全うされたように、教会の体となる我々もキリスト・イエスにあって、キリストとともに必ず、勝利することを約束された勝利の御言葉です！

地上の教会では、時には苦しみや痛みを覚える時があります。しかし、尊い命が生み出される為、さらに成長のための痛みとして理解してください。子を産むために母親が血を流し、苦しみの犠牲を通して、新しい尊いいのちを胸に抱くものではありませんか。子どもたちが成長し、成熟していくうちに家庭は様々な苦しみや葛藤を覚える時もありますが、この時期を通して、子どもたちはさらに成長し成熟して強くなって行きます。主の教会の共同体も尊い命が救われ、生み出される為、共にさらに信仰が成長し、成熟して行く為に当然経験することでしょう。しかし、これを通して、主に喜ばされる成熟した愛と信仰の共同体として益々建て上げられていくのです。そして、かならず教会のかしらであられるイエスキリストは、主の教会と共におられ、我々の苦しみを勝利への喜びに導いてくださることを信じます。

初代教会の教父たちは“教会を母として仕えない人は、神を父として呼ぶ資格がない。”と強調するほど、キリストの教会は神中心、御言葉中心、兄弟姉妹への愛中心とした信仰を持っている人々にとっては、欠かせない信仰の中心となる大切なところであったことがこの文章で感じられます。  
主の教会中心の信仰を強調していた言葉でありながら、我らの信仰は主の教会に深く根ざし、その土台の上に建てられて行くときこそ、まことの信仰の勝利、人生の勝利を得られると信じます。

今年の2021年も残りの下半期、これからも主イエスキリストによって建てられたこのクリスチャンプレイズチャーチの中で根ざし、さらに愛する神の家族を大切に、仕えて揺るがない信仰の素晴らしい勝利の人生を歩み続ける全神の家族となりますように切にお祈り申し上げます！さらなるキリストの勝利と御力を共に頂き、益々共に守られ共に祝福されていくクリスチャンプレイズチャーチの信仰と愛の神の家族共同体、全家の教会牧場となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます！アーメン！